

## 社会福祉法人でのインターンシップ体験レポート

### 実習の内容

毎朝、利用者さんが作業をしやすいように廊下の清掃を行った。一日の大半は、カレンダー作りもしくは刺し子布巾作りのどちらかのグループでサポートなどを行った。具体的には、カレンダー作りでは版画を刷る利用者さんが作業をしやすいように補佐をした。刺し子布巾作りでは、練習用の刺し子布巾を準備し、実際に刺し子布巾の製作をした。その他の体験業務としては、利用者さんと一緒に給食当番の仕事を行い、利用者さんが帰る際のバスの点呼を行った。

### 実習で学んだこと

コミュニケーションをとることの大切さを学んだ。福祉の業界は対ヒトである。実習中、利用者さんを見ていると、スタッフさんを信頼しているのだと感じる場面が多々あった。利用者さんに信頼され安心して作業できる環境を作る最初のポイントは何かと考えたとき、相手と会話をして自分を知ってもらうことだと思った。1日目2日目とあいさつをしても返していただけなかった方も数日したらあいさつを返してくださるようになった。また、利用者さんから話しかけてくださり、自分のことについても話してくださるようになった。それに、利用者さんとの間だけでなく、スタッフさん同士の間においてもコミュニケーション能力は非常に重要になると感じた。日々色々なことが起こる中で、スタッフさん同士の連携が取れていないと、その時その時の問題に上手く対応していくことができないのだろうと感じた。必ずしも希望通りに福祉の業界に入れるとは限らないが、どの業界であれコミュニケーション能力を身につけておくことは無駄にはならないと感じた。日々、聞く力、話す力を鍛えていきたいと思う。

### 実習を終えて

自分に足りないものが何であるのか知ることができた。例えば、ゼミや講義で学習したことだけで発達障害という障害に関して理解しているつもりになっていたが、1人1人得意なことや苦手なことというのは異なっていることなど、まだまだ知らないことばかりであった。本を読んで学習するだけではなく、ボランティア活動で実際にに関わりながら、発達障害という障害に対して理解を深めていきたいと思った。また、実際に1週間実習させていただいたことで、働くということがどういうことなのか知ることができたことも良かった。当たり前のことだが、社会人の人たちは例外を除いては基本的には朝から夜まで働くのが普通である。しかし学生は講義の関係で午後から授業であったりお昼までしか講義がなかったりする。その生活に慣れている私としては8時から5時までという時間は少し大変であると感じた。また、大学生まではゼミの担当教員や小中高では担任教師といった学校生活がある程度サポートしてくれる存在がいる。しかし実際社会に出て働くとなった時には上司はいるとはいえ、自分から自主的に考え行動しなければならない。そのため今のうちから、指示を待ち指示があってから動くのではなく、自主的に物事に取り組んでいく癖をつけていきたいと思った。

2014年8月

社会学部人間心理学科3年 N.N.